

第5章 まちづくりの課題整理

5-1 課題の整理

前章までの本市の現況及び各種団体ヒアリングの結果を踏まえ、西九州自動車道の開通を控えた本市におけるまちづくりの課題を整理します。

項目	現状	問題点・課題	課題まとめ
1. 人口動向	<ul style="list-style-type: none"> 人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯(H27 国勢調査) S30 の 81,625 人をピークに減少傾向 市全域では人口減だが、用途地域内では増加傾向 但し、用途地域では、伊万里駅周辺は人口減少、用途地域縁辺部は人口増加 年少人口、生産年齢人口、老年人口割合が、14.8%、56.6%、28.6%、少子化、高齢化が進行(H27 国勢調査) 生産年齢人口は、H17(35,184 人)からH27(31,230 人)で約 4,000 人減 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の人口減少による、まちの賑わい低下が懸念される。 生産年齢人口の低下による産業の停滞により、まちの活力低下が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要(課題3)
2. 産業動向	<ul style="list-style-type: none"> 就業者数は 27,920 人、減少傾向(H27 国勢調査) 1 次産業 2,582 人、2 次産業 8,891 人、3 次産業 16,304 人(H27 国勢調査) 製造業、建設業、卸売・小売業、医療・福祉従事者が多く、特に製造業、医療・福祉は全国比較でも就業割合が高い 市内高校生の「市外への就職予定者」及び「進学予定者」の将来の U ターン就職意向は、それぞれ1割、2割程度にとどまっている。 伊万里牛、伊万里梨、伊万里焼・鍋島焼などの伊万里ブランドが確立している 他方、伊万里ブランドが各々で展開し、協働の取り組みが少ない 日本海側拠点港(国際海上コンテナ拠点港)伊万里港における貿易量は増加傾向 臨海部の工業団地には製造業が集積(SUMCO など) 他方、残地が少なく企業誘致が難しい状況 鍋島、古伊万里などの肥前磁器(日本遺産に認定「日本磁器のふるさと肥前」) 観光客数は年間 134.0 万人(H27)、近年微減傾向にあったがH25 で増加に転換(唐津市 772.6 万人、佐世保市 788.7 万人、佐世保市は近年増加著しい) 伊万里中 IC の乗降台数が周辺 IC より少ないことが予測されている。(H42-8,500 台/日) 西九州自動車道南波多谷口 IC 開通後の道の駅「伊万里」利用者数が大幅に増加 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の場の確保はもとより、在学中にふるさと伊万里で働きたいという意識づけが必要である。 伊万里ブランドのさらなる知名度向上(伊万里牛、伊万里梨)及び連携による重層的な展開が必要である。 伊万里港については、博多港と差別化を図り、さらなる貿易量増を図る必要がある。 IC 開設を契機とした雇用創出のための新たな工業団地整備検討が必要である。 近隣市町を含めた広域的観光への対応が必要である。 佐世保市、唐津市で増加する観光客を本市へ取り込む仕掛けづくり、目的地となる地域づくりが必要である。 伊万里東府招IC開通後は、道の駅「伊万里」利用者の減少が懸念される。全線開通後は、これまで伊万里市内を通過していた平戸・松浦方面の利用客が素通りすることが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした地域産業の活性化(課題1) 広域的な観光振興策の取り組みが必要(課題2) 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要(課題1, 2) 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要(課題1, 2)
3. 土地利用動向	<ul style="list-style-type: none"> 人口集中地区(DID)は、H2 からの 20 年で約 40ha 拡大。用途地域縁辺部でまとまった宅地開発が実施されている。 中心市街地での人口減少、商店街の空き店舗率は県内でも突出(県平均約 16%に対し、本市は約 32%と2倍) 用途内に人口が集積、周辺にも複数の既存集落が存在しコミュニティが形成されている。 都市計画道路の整備にあわせ、市街地外延部での商業施設立地が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> IC 周辺における開発機運の高まりによる無秩序な土地利用転換が懸念される。 空き店舗等の増加による中心市街地の活力低下が懸念される。 既存集落における人口減少、高齢化に伴うコミュニティの崩壊が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画(都市計画)が必要(課題3) 中心市街地の活性化、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要(コンパクト+ネットワーク)(課題3)
4. 都市基盤整備状況	<ul style="list-style-type: none"> 日本海側拠点港(国際海上コンテナ拠点港)伊万里港の存在(強み) 西九州自動車道、国道 204 号、大坪木須線の早期整備が求められている。 西九州自動車道へのアクセス道路となる都市計画道路等が未整備 JR 筑肥線(7 駅)、MR 西九州線(11 駅)存在、民間バス、いまりんバスが運行するも、公共交通空白地域に 75 歳以上人口の約2割弱の方が居住している。 	<ul style="list-style-type: none"> 港湾計画に基づく伊万里港の機能充実が望まれる。 西九州自動車道へのアクセス道路となる都市計画道路の早期整備が必要である。 公共交通空白地の解消に向けた取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要(港⇄工業団地⇄IC など)(課題1, 2)
5. その他(団体ヒアリング)	<ul style="list-style-type: none"> 伊万里ブランドは確立されているが、個々の取り組みだけで次の発展に結びついていない。 ポートセールスや空き店舗対策など、民間、行政それぞれの取り組みでは限界がある。 良質な資源はあるものの、情報発信力が弱くチャンスを逃がしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 異業種連携による地域産業の振興が必要である。 官民協働による取り組みが必要である。 時代に即した的確な情報発信手法の計画的な展開が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要(課題2) (再掲)

前項の課題を整理すると、以下の3つの課題に集約されます。

課題1 産業振興に関する課題

- 西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした地域産業の活性化が必要
- 異業種連携による ALL 伊万里での取り組みが必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要

基幹産業である農畜産業や地域産業である窯業については、西九州自動車道整備による地理的優位性を生かした販路拡大等の取り組みはもとより、6次産業化や異業種連携等による「伊万里ブランド」の育成・強化にも取り組む必要があります。

また、新たな雇用創出につながる起業支援等にも取り組んでいく必要があります。

あわせて、本市が有する伊万里港の物流拠点としての機能を産業振興に最大限結束させていくためにも、港湾機能の強化促進やアクセス道路整備促進などを関係機関へ働きかけていく必要があります。

課題2 観光振興に関する課題

- 広域的な観光振興策の取り組みが必要
- 異業種連携による ALL 伊万里での取り組みが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要

観光分野においては、福岡都市圏からの玄関口となる本市の地理的優位性を生かした取り組みを進める必要があります。その際には、本市単独で取り組むのではなく、周辺自治体と連携した広域的な取り組み体制を整えるとともに、各観光資源の磨き上げや異業種連携による取り組みなど、ALL 伊万里で観光振興に取り組むことで、本市が素通りされることなく目的地となるよう取り組む必要があります。

課題3 生活・暮らしの場充実に関する課題

- 人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要
- 西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画（都市計画）が必要
- 中心市街地の活性化とともに、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要（コンパクト+ネットワーク）

西九州自動車道の IC 開設を好機と捉えた産業振興、観光振興の展開を進めるためにも、まずは、その原動力となる本市に暮らす住民自身の生活が豊かになるまちづくりを進める必要があります。特に、人口減少、少子化、高齢化が進行する将来を見据え、今の地域で生活を続けていくことができるような将来の土地利用計画（都市計画）を進める必要があります。